\ 医師を目指す高校生・受験生を応援します /

高校生・受験生 医師体験Q&A

2025年春の一日医師体験で寄せられた高校生からの質問に
京都民医連中央病院　整形外科専攻医　三浦医師がお答えします。

Q この仕事のやりがいと大変なところを教えてください

A 手術を事前のイメージトレーニング通りに完遂できた時にもっともやりがいを感じます。
大変なところとしては、自己研鑽がどうしても必要な職業なので労働時間が長くならざるを得ないところです。

Q 大学生時代にやっておくべきこと等はありますか？

A 体力作りだと思います。身体的な体力だけではなく、一日中色々な人とコミュニケーションをとれるという意味での精神的な体力（コミュ力？）も必要かと思います。色々な場所や集まりに参加して鍛えておくのがおすすめです。僕は学生時代にそういうコミュ力磨きをしていなかったので医者になってから苦労しました。

次ページに続きます→

\ 医師を目指す高校生・受験生を応援します /

高校生・受験生 医師体験Q&A 2/2

Q 医学部はどこも難関で自分の学力が追い付かないのではと不安です。医学部に入った後も勉強についていけるか不安です。

A 医学部には多浪がけっこういるので、学力で現役入学できないのなら浪人という選択肢は他学部に比べて許容されるかとは思います。ただ厳しい言い方かもしれませんが、入学前にそれほどのプレッシャーを感じるのであれば無理に医学部を目指さなくても良いのではないでしょうか。

Q 医師自身のメンタルケアに関して、どのような心構えでいることが大切ですか？

A 患者さんやコメディカル、同僚に感情移入しすぎると一つ一つのエピソードに正面から向き合ってしまいメンタルが削られます。仕事と割り切ってサクサクこなしていくことが長持ちの秘訣のような気がします。 あとは業務以外になにか趣味を継続するといいと思います。仕事終わりのジム通いを去年から続けていますが、業務がうまくいかなくてもジムは継続できてるしな…という感じで自尊心を保つことができます。

高校生・受験生の皆さんの疑問を少しでも解消できたなら幸いです。

作成：京都民医連事務局　医学生担当
：075-323-7961（代表）　：igakusei@kyoto-min-iren.org